



George Smith *Ten weeks in Japan* London, 1861 G.スミス『日本における十週間』

著者のスミス(George Smith, 1815-1871)は1849年から1865年にわたり英国国教会の極東における伝道の拠点、香港ヴィクトリア教区の初代主教を務めた人物。イングランドのウェリントンに生まれオックスフォード大学で学んだのち、1844年、チャーチ・ミッショナリー・ソサエティ (Church Missionary Society)により中国へ派遣されたのを皮切りにアジア地域での伝道に尽力した。

彼が日本での伝道の可能性を探るべく来日したのは1860年。神奈川、長崎、箱館の3港でイギリス、オランダ、ロシア、フランス、アメリカとの自由貿易が始まった翌年であり、尊王攘夷を唱える水戸藩士らが大老・井伊直弼を暗殺(桜田門外の変)するなど世情の不安定な時期だった。

本書は日本の社会制度、人々の暮らしぶり、日本人の生活における宗教の在り方など、日本の実情を記録し、日本における伝道の展望を考察した報告書。10週間の滞在中、長崎では居留外国人のために礼拝を行い、江戸では初代駐日英国公使オールコック(Sir John Rutherford Alcock, 1809-1897)とともに市中を見物するなど、多くの訪日外国人との交流の様子も記録されており、国際社会へ開かれつつある幕末日本の空気が感じられる。

日本を離れアメリカを経て帰国したのち1861年にロンドンで出版された。日本地図1枚と図版8枚を収録。